



「外為短期投資家動向調査」結果

<第36回調査>

2012年5月28日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施しておりましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2012年5月15日(火)13:00~2012年5月22日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。

今回の有効回答数は452件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

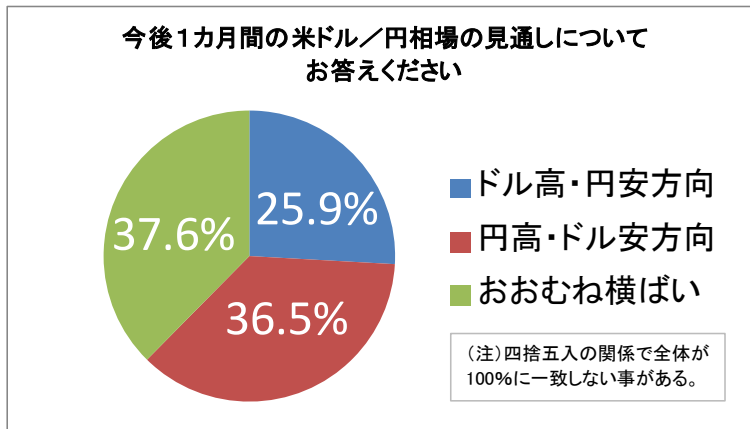
Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第36回調査結果略報：米ドル/円半年ぶりに円高予想が優勢に】

問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

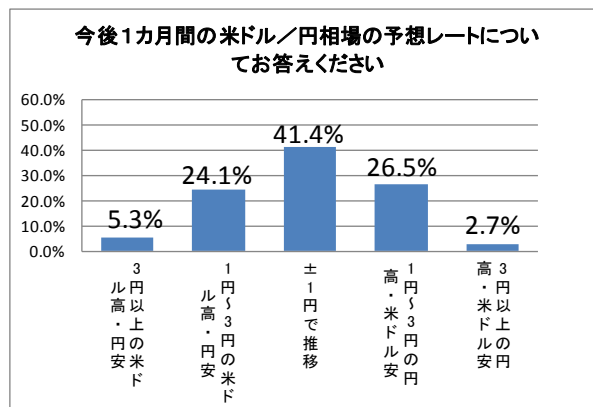
「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「米ドル高・円安方向」と答えた割合が25.9%であったのに対し、「円高・米ドル安方向」と答えた割合は36.5%となった。この結果、「米ドル/円予想DI」は▲10.6%ポイントとなり、半年ぶりに「円高・米ドル安方向」に予想が転じた。ただし、今回の投票で最も支持を集めたのは「おおむね横ばい」で37.6%だった。5月に入ってから米ドル/円相場は80.00円を挟んで方向感の乏しい展開が続いている。調査期間の5月15日から22日の米ドル/円のレンジは79.00～80.55円と、この1カ月で最も値の動いた週となったが、方向感に乏しいという状態は変わらなかった。これが横ばい予想を増加させた主な要因と見られる。

※過去のドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「±1円で推移」が41.4%と最も多く、次いで「1円～3円の米ドル高・円安」が26.5%、「1円～3円の円高・米ドル安」が24.1%、「3円以上の米ドル高・円安」が5.3%、「3円以上の円高・米ドル安」が2.7%の順となっており、ヒストグラムの形状と問1と整合性は取れている。また、多少の方向感が出たとしても、3円は超えないだろうとみる投資家が大半であることも分かる。なお、値幅を問わず、単純に「円高・米ドル安」「米ドル高・円安」という観点で見た場合、前者と答えた割合は29.2%、後者と答えた割合は29.4%と拮抗しており、多少は方向感が出ると見ている向きにしても見方が交錯していることが分かった。見通しが一定のバイアスに傾くには決め手に欠ける状況のようだ。



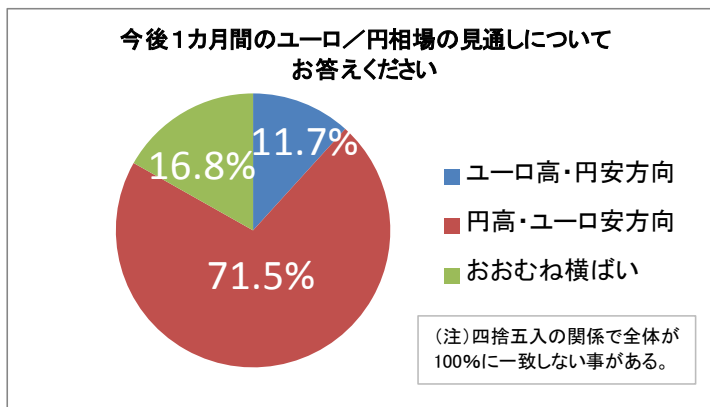
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が僅か11.7%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が71.5%と、大幅に投資家層の見方が偏った。これにより、「ユーロ/円予想DI」は▲59.8%ポイントと、DI調査以来、最も低い結果になった。4月から浮上していたスペインの金融不安に加え、ギリシャの総選挙で連立与党が敗退したことから、同国に対するEU/IMFからの支援中断やユーロ圏離脱にまで懸念が広がっていった点が大きいと見られる。

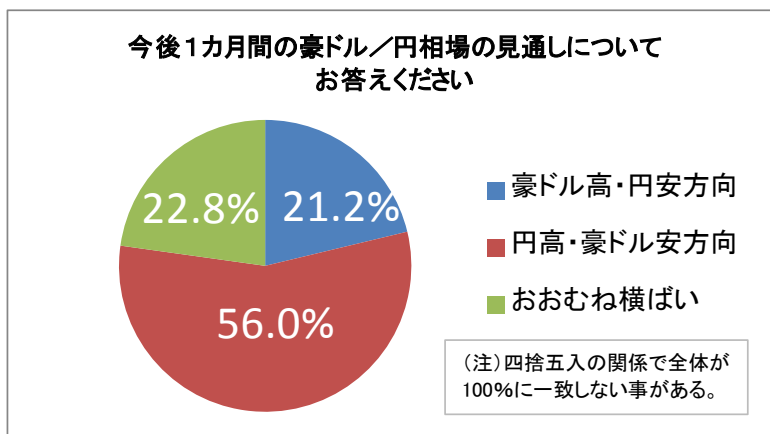
※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が21.2%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は56.0%となった。この結果「豪ドル/円予想DI」は▲34.8%ポイントとなり、ユーロ/円と同様、DI調査以来最も低い結果となった。調査期間中もギリシャを筆頭に欧州の債務問題に起因するリスク回避ムードが強く、豪ドル/円に対する弱気な見方につながったと考えられる。また、豪州は5月1日に0.50%もの大幅利下げを行った上、さらなる利下げについて豪準備銀行(RBA)が含みを持たせた点も、弱気な見方を助長した可能性がある。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

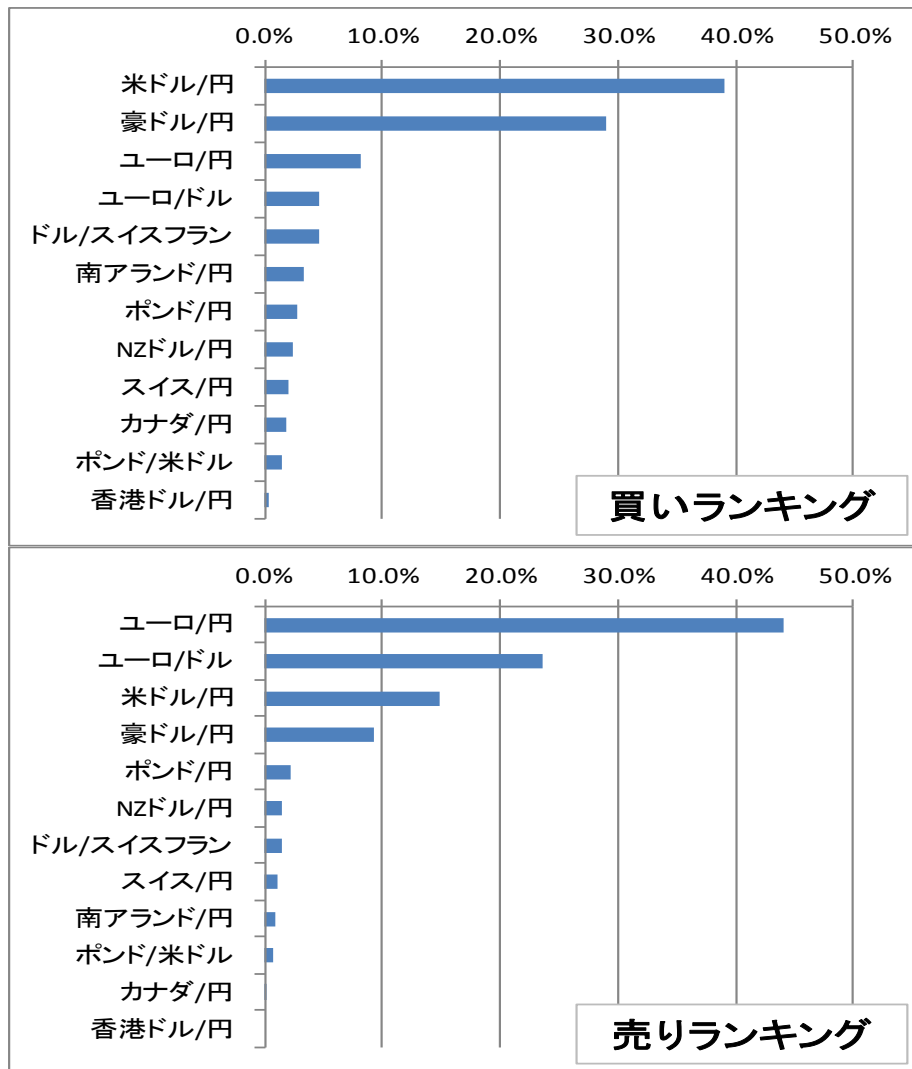


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

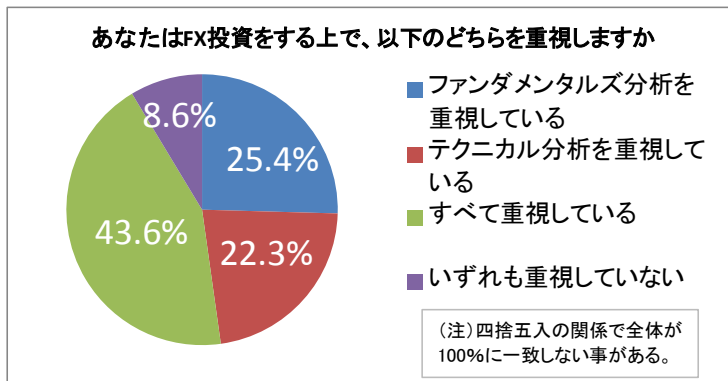
「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル/円(39.2%)、2位豪ドル/円(29.0%)、以下3位ユーロ/円(8.2%)、4位ユーロ/ドルとドル/スイス(4.6%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ユーロ/円(44.0%)、2位ユーロ/ドル(23.7%)、3位米ドル/円(14.8%)、4位豪ドル/円(9.3%)、5位ポンド/円(2.2%)となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、米ドル/円が1位の座をキープし、その回答割合は前月(39.4%)とほぼ同水準となったが、2位豪ドル/円、3位ユーロ/円、4位のユーロ/ドルまでについては、その割合を減らす結果となった。問3や問4の結果を反映していると言える。一方、「売り」で注目の通貨ペアについては、順位は1位から5位まで変わらずとなった。ただし、ユーロ/円(4月: 30.2%→5月: 4.0%)やユーロ/ドル(4月: 22.4%→5月: 23.7%)が回答割合を伸ばし、ドル/円(4月: 21.4%→5月: 14.8%)以下の通貨ペアの割合が低下している様子から、FX投資家は「ユーロが下落する可能性は他の通貨ペアに比べて高い」という見方を強めていると見られる。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

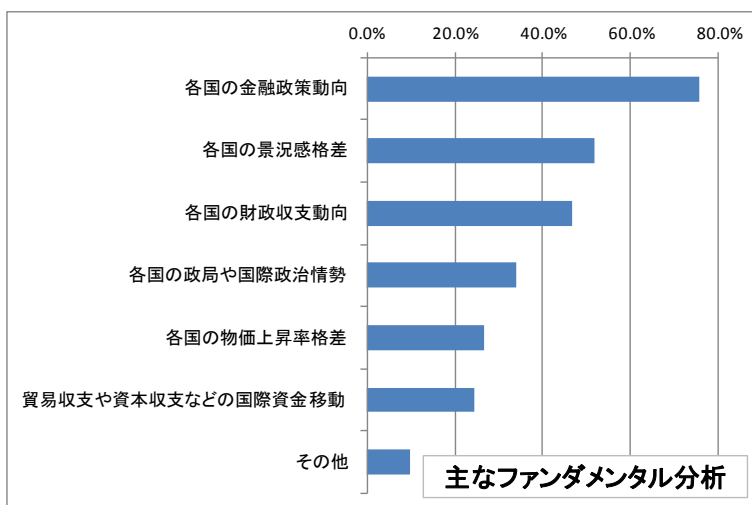
問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視する」と答えた割合が25.4%であったのに対し「テクニカル分析を重視する」と答えた割合が22.3%という結果となった。また「すべて重視している」と答えた割合が43.6%と引き続き最も多く、「いずれも重視していない」は8.6%であった。ただ、「テクニカル重視派」の割合は調査開始以来で最も低い結果となった。一方、「全て重視」派の割合が4割を超えたのも初めてのことだ。ニュースによって振られる相場が続いているせいか、テクニカル重視派がテクニカルだけ見ることから「ファンダメンタルズも併せてみる」派に移行している可能性がある。



問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか？(いくつでも)

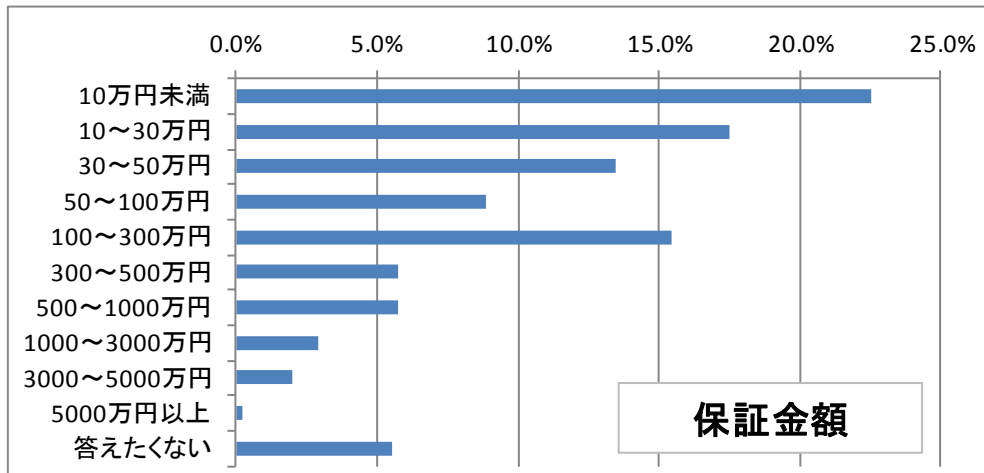
「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(75.8%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(51.9%)」、「各国の財政収支動向(46.7%)」、「各国の政局や国際政治情勢(33.9%)」、「各国の物価上昇率格差(26.8%)」の順に続いた。今回も「各国の金融政策動向」が他を大きく引き離して7割を超える回答割合を集めた。一方で「貿易収支や資本収支などの国際資金移動(24.5%)」と答えた割合は今回も最も少なかった。海外投資家の間では、本邦貿易収支の赤字化を円安材料として捉える向きが多いようだが、FX投資家の間ではこうした見方は意外に少ないようだ。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

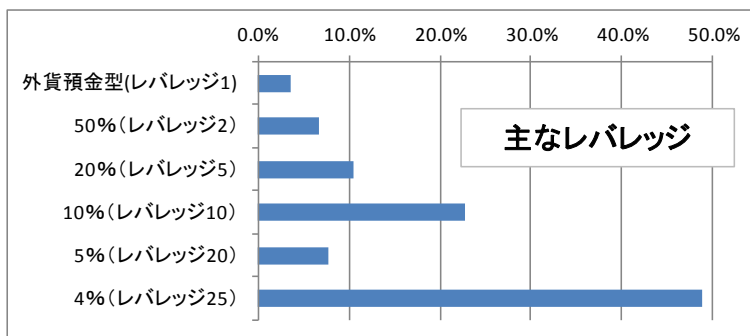
問8: FX取引の際の取引保証金の額についてお答えください(ひとつだけ)

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が22.6%と最も多く、以下「10～30万円(17.5%)」、「100～300万円(15.5%)」、「30～50万円(13.5%)」、「50～100万円(8.8%)」と続いた。前回調査と比べ、「10～30万円(前回:20.5%)」「50～100万円(前回:12.9%)」が目立って減少した一方、「100～300万円(前月:13.7%)」の割合は増えた。前月は30万円から300万円までの層はほぼ同割合だったが、今回調査ではバラつきがでてきた。なお、1000万円以上の保証金で取引を行うとする層は5.1%と、前回調査(2.6%)からさらに増えている。10万円未満の層はそのまま変わらずも、それ以上の保証金を使用する層は、積み増す傾向を強めている可能性がある。



問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？(ひとつだけ)

「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「4%(レバレッジ25)」と答えた割合が48.9%と最も多く、「10%(レバレッジ10)」が22.8%、「20%(レバレッジ5)」が10.4%と続き、以下、「5%(レバレッジ20)」が7.7%、「50%(レバレッジ2)」が6.6%と続いた。昨年8月のレバレッジ規制以降は、「4%(レバレッジ25)」と「10%(レバレッジ10)」の合計で70%前後を占める傾向が続いている。この間、回答割合にも大きな変化はなく、FX投資家のレバレッジ選択については、相場動向や予想の自信度によって強弱を付ける事なく、ほぼ固定化されているようだ。この点については、自分なりの投資スタイルを確立しているFX投資家が多い事を物語る。

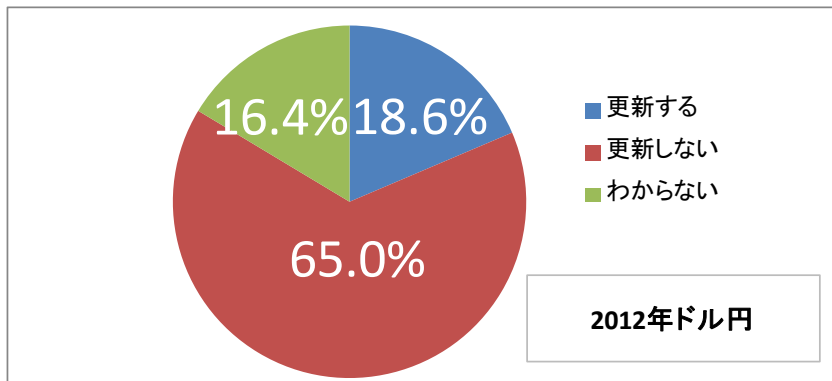


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

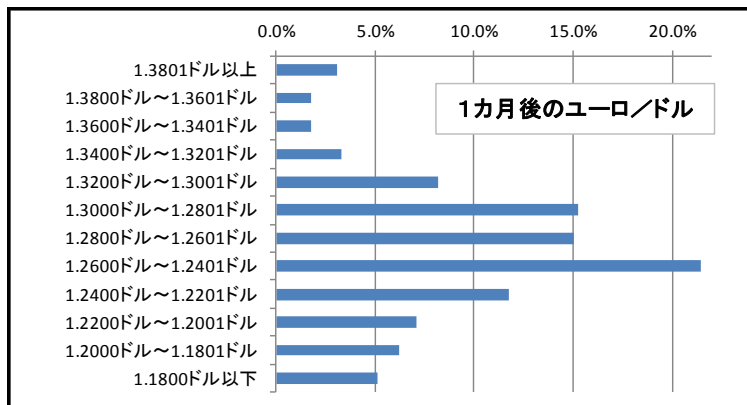
問10: 2012年12月31日までにドル/円相場は、2011年10月31日東京市場オープン前に記録した戦後最安値75円32銭を更新すると思いますか(ひとつだけ)

今月の特別質問項目として、2011年10月31日につけた戦後最安値である75.32円を今年中に更新すると思いますか?とたずねたところ、65%のFX投資家が「更新しない」と考えていることが分かった。「更新する」と考えているのは18.6%と少数派だ。調査期間中は79円台でかなり底堅い様子を示していた上、5月に入ってからは方向感にも乏しい状態が強まっていたことなどを背景に、そのまま年内の戦後最安値の更新の公算を小さいと見る投資家層が多くなっている可能性があり、問1・問2で横ばい予想が大勢を占めたこととも整合性はとれている。ただし、調査期間のドル/円の中央値が79.78円。ここから戦後最安値までは約4.5円ほどしかない。2012年12月末まで半年以上あることを考慮すると、現在の水準から大きく円高・ドル安が進む可能性はもちろんある。ドル/円がこの調査週の水準よりも下落した時、FX投資家層のマインドもまた大きく変化するとみる。



問11: 1カ月後のユーロ/ドル相場の見通しについてお答えください(ひとつだけ)

今月のもう一つの特別質問項目として、1カ月後のユーロ/ドル相場の見通しについては?とたずねたところ、「1.2600ドル～1.2401ドル」が21.5%と最も多く、以下「1.3000ドル～1.2801ドル(15.3%)」、「1.2800ドル～1.2601ドル(15.0%)」「1.2400ドル～1.2201ドル(11.7%)」と続いた。調査期間中のユーロ/ドルのレンジは1.2642ドル～1.2869ドル。つまり、この先1カ月で一段と下落すると見たFX投資家が最も多く、調査期間の水準よりも上昇すると見ているFX投資家は全体の18.2%の少数派、という結果となった。欧州債務問題に対する不安は根強く、頑張っても横ばい程度、という見方が強いようだ。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様が生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第36回目となりました。調査開始後3年近くが経過し、前月との対比での時系列比較だけでなく、前年同期との比較も可能になってきました。しかしながら、まだ十分な時系列データの蓄積は進んでおりません。このため、現時点では統計分析に深みを持たせるために必要不可欠な長期間に渡る時系列比較を十分に提示することはできていませんが、今後、毎月定点観測で実施する調査結果の蓄積が進むにつれて、DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握も可能になってくることが期待されます。

毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年中央以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

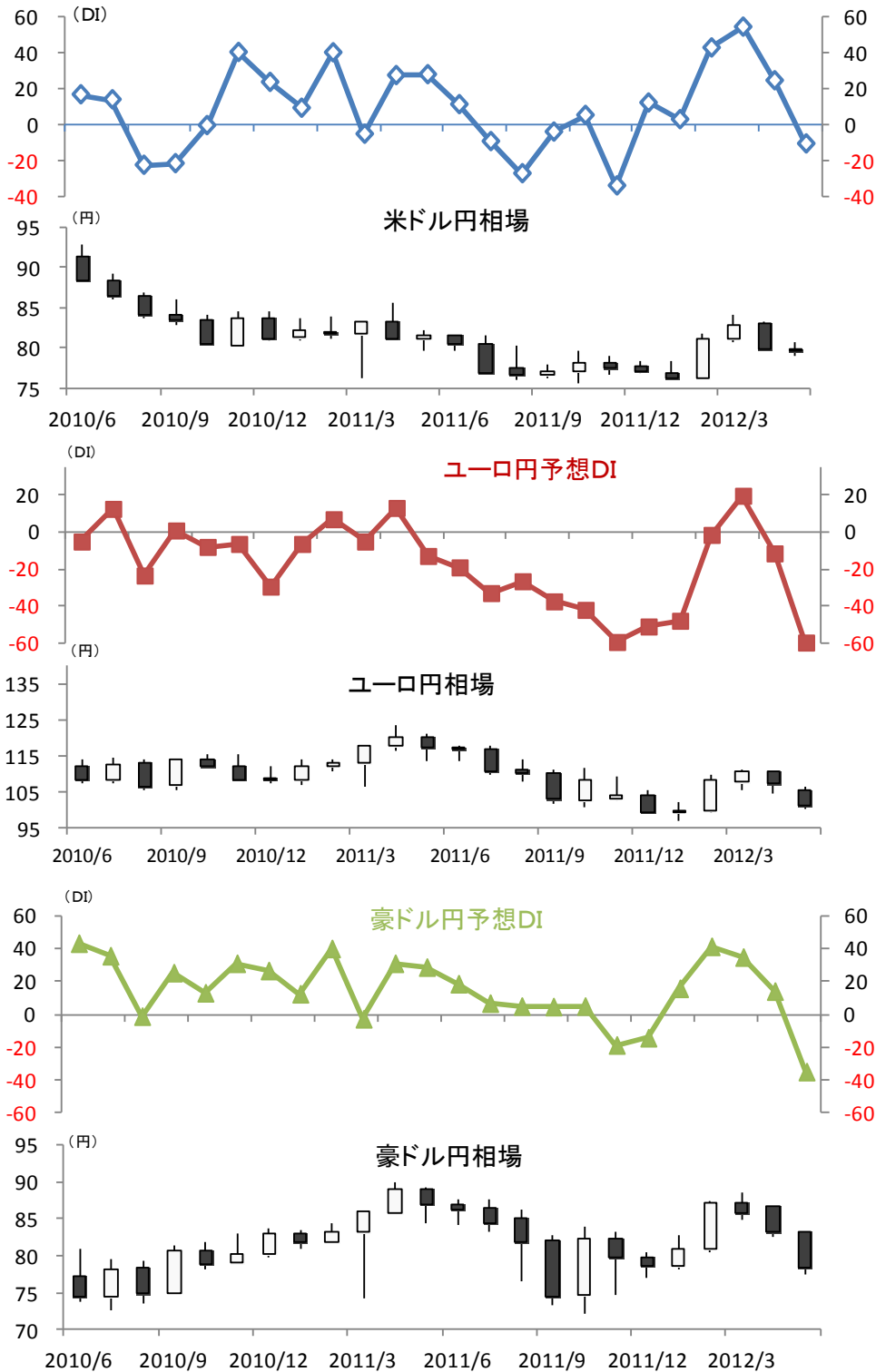
		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2010年	6月	35.9	19.1	16.8	32.9	38.0	-5.1	58.7	15.5	43.2
	7月	40.8	26.8	14.0	41.8	29.2	12.6	53.9	18.3	35.6
	8月	26.0	48.5	-22.5	25.2	48.7	-23.5	34.5	35.6	-1.1
	9月	22.3	43.9	-21.6	36.7	35.8	0.9	47.8	22.5	25.3
	10月	37.3	37.7	-0.4	29.3	37.3	-8.0	38.9	25.8	13.1
	11月	57.4	17.0	40.4	28.2	34.6	-6.4	48.0	17.0	31.0
	12月	42.9	19.2	23.7	19.2	48.7	-29.5	44.0	17.4	26.6
	1月	33.0	23.7	9.3	31.8	38.2	-6.4	37.3	24.8	12.5
2011年	2月	53.2	13.0	40.2	33.6	26.6	7.0	54.8	14.8	40.0
	3月	38.7	43.9	-5.2	35.1	40.2	-5.1	37.7	40.4	-2.7
	4月	48.2	20.7	27.5	43.8	30.7	13.1	51.0	20.0	31.0
	5月	44.3	16.3	28.0	29.4	42.3	-12.9	47.7	19.0	28.7
	6月	33.4	22.1	11.3	25.2	44.3	-19.1	41.2	22.6	18.6
	7月	29.4	38.7	-9.3	22.3	55.3	-33.0	36.2	29.4	6.8
	8月	18.1	45.3	-27.2	20.8	47.4	-26.6	36.3	31.3	5.0
	9月	23.9	27.9	-4.0	21.0	58.5	-37.5	36.4	31.7	4.7
	10月	26.3	21.0	5.3	19.4	61.5	-42.1	40.0	35.0	5.0
	11月	14.5	48.5	-34.0	12.1	71.6	-59.5	26.3	44.9	-18.6
	12月	30.2	18.0	12.2	13.5	64.6	-51.1	27.1	41.3	-14.2
	2012年	1月	25.0	22.1	2.9	17.9	65.9	-48.0	40.5	24.7
2月		57.4	14.5	42.9	36.1	37.6	-1.5	59.1	17.8	41.3
3月		67.0	12.5	54.5	43.4	23.7	19.7	52.5	17.7	34.8
4月		45.1	20.5	24.6	29.8	41.3	-11.5	40.8	26.7	14.1
5月		25.9	36.5	-10.6	11.7	71.5	-59.8	21.2	56.0	-34.8

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表: 主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com